

Urban Design Lab. Magazine

2014.4.30 vol. 228



新メンバーを迎えて

Welcome new members to Urban Design Lab

東京大学
工学部都市工学科／
工学系研究科都市工学専攻
都市デザイン研究室

<http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/>

中島直人准教授、着任 p.2
新メンバー紹介（博士課程） p.5
新メンバー紹介（修士過程） p.6
マガジン編集部 新体制始動 p.8
ウェルカムパーティー！ p.8

編集長： 今川高嶺

編集委員：中島健太郎 高橋舜

中井雄太 黒本剛史 砂塚大河

富田晃史 王誠凱



M2 今川、中島、高橋、M1 黒本、B4 浜田でお話をお伺いしました。



中島直人准教授、着任

Associate Professor Naoto Nakajima arrived.

この春、3月まで慶應義塾大学にいらった中島直人先生が都市デザイン研究室の准教授に着任されました。6年ぶりの都市デザイン研究室ということで、さっそく研究室への思いをインタビューさせていただきました。

*

一慶應大学でしていたこと

研究室でやっていたプロジェクトは都市デザイン研と一緒に基本的には地域の方々や自治体の方々と一緒に現場でやっていた。藤沢は戦後の都市計画の色々なものの積み重ねで現在の都市空間の形をなしているの、その文脈を意識した街のすがたを基本テーマにやっていた。富士吉田は御師（おし）まちという江戸初期からの富士信仰のまちだけど、今は信仰が衰退して空間が残っている状態。歴史や文化を現代のまちづくりにどう活かすか、観光との関係をどのように考えるかとい

うのを都市計画事業の話と景観法、歴まち法の話と連動させて今年度は考えていく。

それ以外にも銀座、島原、大連とかいろいろ活動していた。面白いことに旧満洲には日本人が計画した温泉はあっても温泉街という概念はない。大連郊外で日本型の温泉街を作るにはどうしたらいいかを建築の先生と提案したりしていた。

一慶應大学 SFC の特徴

慶應大学の SFC は、プロジェクトベースで学んでいくが、学生はまちづくりというより広がりのある興味を持っているので都市計画に限定せずにいろいろやっていた。

SFC は基本的には学部生が中心で 1,2 年生から研究室に入れる。彼らはフットワークが軽いし、実は大学院生より敷居が低くてまちに溶け込むのはうまい。研究室の垣根も低くて、院生でも他の研究室に所属できたり、学部生も渡り歩いたり、同時に二つ入ったり。空間としても研究室ごとに分けられ

てなくて共有スペースがいろいろあって隣のゼミがなにやってるかよく分かる。

一都市工の学生が見習うこと

都市工の学生は、もう少し他分野と付き合った方がいい。まちや都市を考えている人は世の中にもっといろいろ違うスタンスでいて、そういう人たちに一杯会って、活動を身近に見ることで我々のできること・やるべきことが明確になると思う。

（ほかと連携ということでは）東大生や東大そのものが外に出て行くように、まわりの街が相当面白いのでそこも含めて東京大学と考えたい。例えば谷中キャンパスとかでキャンパスの概念を広げていくとか。あとは都市工内の横のつながりを授業とか輪講とかを含めてつくっていききたい。

一都市計画史の授業について

都市計画史だけでは飯を食っていけない



▲「藤沢市南部防災建築街区造成事業」により形成された藤沢 3 9 1 街区および藤沢駅周辺におけるまちづくりブック

状態なんだけど、今、そして今後を考える基盤になるもので、重要だと思っている。都市計画史の方も現実の都市計画とか都市デザインに結びつくようにやっていかなければいけない。建築は建築史という分野があるからこそ目の前の問題とか技術だけでなく文化的な側面を有していると思うので、都市工も（そうして）文化や思想を込められる存在になると思う。

一都市デザイン研究室について

皆都市デザイン研がどうなるか気になると思うけど、研究室はやっぱりそのときどきの学生の関心がつくり上げていくもので、これから活動報告会を聞いたりして西村先生と考えていきたい。窪田先生とか出口先生とかいろんな研究室があって、学問や取り組み方が違うことはそんなにないけど、それぞれの先生の専門とか関心は少しずつ違うと思う。

一都市デザイン研の学生は

皆大学に長くて仲がいいと思う。ご飯を皆で食べに行ってそのままだらだらして 21 時くらいからやり始めて、24 時を越えてからエンジンがかかって、僕は院生の時には 26 時くらいまでは残っていたと思う。大学でだらっとしてても皆と話す勉強になるし、都市のことを考えている。

都市デザイン研は先生方が皆体育会系で、みんな体力があると勘違いしてプロジェクトを進めてきた。実際、体力がないと 20 代を乗り切れないので絶対大事だし、少ない労働量で高い成果を得るなんて嘘。

この人は演習に影響をうけて、要は都市工の演習室にずっといる人たちが多。だいたい演習室でだべったり、オムニバスで本気だしちゃったりして院試だめだった子も多かった。でも逆にいうと都市計画や都市デザインが好きなタイプがそうだったりして、大学院に入ったらすごい伸びて初志貫徹で都市デザインをやったりする。内緒ですが、西村先生も 2 回院試に落ちているらしいです。

一進路について

研究室の PJ と進路との関係で考えさせられることがある。いろいろ活発に地域でまちづくり活動をしていた子が大手の設計事務所やゼネコンに行くが、そこでは都市デザイン研でやってたようなボトムアップ型のものは難しい。その前は自治体とかコンサルとかにもっと人が行っていたのにやや多様性が失われてきたのかなと思う。プロジェクトは大学だからできることで仕事は違うことでもいい、という整理を皆がしているのか分からないが、逆に将来そういうところに行きたいとなったときに、都市デザイン研の教育やプロジェクトが本当に合っているのか我々も学生

も考えなければいけない。

一活動の在り方

なんとなく都市デザイン研の活動も誰かが用意していて、それを選択している状態なので、もっと学びたいこととかを（学生が）打ち出してもいいと思う。

でも皆あんまり考える時間がない。昔はプロジェクトはひとりひとりの負担が少なく、それ以外の時間で研究室外の取り組みをやる時間があ。プロジェクトがうちの研究室の特徴の一つなんだけど、それだけじゃなくもっと自由な発想があると思うし、学生の方からも考えていくといい。

一都市の考え方が変わったまち

影響を受けたのは鞆の浦だけど、自分の生活経験と違う所に行けばどこでも影響を受けと思う。昔授業ででてきた場所を本当に見にいきたいなまちあるきをやっていた。思い出に残っているのはナイトウォークで、三鷹で集合して玉川上水を上っていく。歩く回数時間で朝まで歩いて、20km 圏から 40km 圏までどういうふうに東京が変わっていくかと分かる。朝、解散。自主的なフィールドワークが大事というか、どうやってもお膳立てされるとあんまり頭に入らない。皆で同潤会アパートもまわったりした。その時の資料作りが勉強になった。



▲新宿プロジェクトで作成した景観まちづくりガイドブック

ひとりひとりが、研究を通じて都市デザインとは何かとか、個別の都市論を展開して欲しい。

プロジェクトで大変だったのは新宿プロジェクトで、新宿区の景観計画をつくるために基礎調査として新宿区のすべての道を歩いた。2組くらいカップルが生まれて、それぐらい密な、ようするに体力と時間がやたらと消費されるようなプロジェクトだった。でもそのときにまちを歩くのは本当に大事だと思った。陣内先生の空間人類学とか知っているつもりだったけど、あそこで出てくるような場所が新宿区にはけっこうあって、実際に作業して体験すると、あの本から得るものがまったく変わってくるし、歩いて見えてくる風景が変わってくる。

全部のプロジェクトからいろいろな影響を受けているので、それはどんなものでもやる側の姿勢によると思う。どんなまちでも何かを得てやろうと。自分にとって一番大切な故郷を除けば、まちには優劣ないしどんなまちでも面白いし、いろいろなことを教えてくれる。その積み重ねでしかない。(プロジェクトは)一番いいところを選びたくなくなってしまうけど、実はどんなまちでも良くて、関わっていると好きになるもの。



▲最近読んでいる本について話す M2 中島 (上) とインタビューの様子 (下)

一都市デザインとは

都市デザインとは何なのか。都市工全体は都市計画をやっているが、その中で都市デザインはどういう役割を持っているか。演習は純粋な空間のデザインだけど都市デザインはもっと広がりをもって、まちを現実はどうしていくかの戦略的な話とかも含んでいる。助手になりたての頃に自分でそういう問いを立ててみて、「都市デザイン」がどうやって生まれたのか、パイオニアの方にインタビューした。自分のやっていることをしっかり説明したい。

都市デザイン研にとって都市デザインは一番大事なコンセプトだけど、みんなやっぱりそこがちゃんと捕まえてない。都市計画の役割そのものが変わってきているし、しっかり確立していないのでまずは都市計画をきちんとし、都市計画と都市デザインの立ち位置を考えることが必要。北澤先生が来る前は都市設計だったのを、わざわざ「都市デザイン」に変更した。今でも五十嵐さんが都市設計と言っているのは貴重な遺産だが。

都市計画は計画技術としてあるが、都市デザインは都市そのものを考えるようなところがあって、都市工の中では都市計画の批判的

な存在だった。都市計画の中に都市デザインがあるのではなくてそこをもっと広げようというのが都市デザインなのかもしれない。都市デザイン研が一番都市という存在に正面から向き合って、手を突っ込もうとしている。他研究室は都市計画という道具を扱っているだけであって都市そのものは触ってないというのがかつての都市デザイン研のプライドだった。現場で得体のしれない都市に触れ、それに慣れたりする体験をするのが大事。

そういう意味で都市工の中で都市論をしっかりやった方がいいと思う。都市工学が実用主義をかかげて、世の中の役に立とうとすること自体はもちろん悪いことではないけど、理論的基盤とか思想とかがないと駄目だと思う。論文見ても思うところがある。都市デザイン研の論文は先取りする形で時代からずれていたり、課題設定にオリジナリティがあったりする。ひとりひとりが個別の研究を通じて都市デザインとは何かとか、個別の都市論を展開して欲しい。論文で言えば「はじめに」とか「おわりに」とかに都市そのものの言及ができるかどうかで大事で、そういう論文が面白いと思う。それと、「あとがき」も大事です。



新メンバー紹介 (博士課程)

Introduction of New Doctor Students.

博士一年：矢吹剣一



この度、博士課程に入学しました矢吹剣一です。修士課程（都市デザイン研究室）を修了後、組織設計事務所に3年間勤務し、主に都市計画に関する実務に従事しておりました。修士論文では空き家再生に関する活動の研究を行なっておりました。実務の現場もとても学ぶ事が多かったのですが、修了後も（論文の投稿等で）研究と向き合っていくなかで、まだこの分野の研究を続けたいと感じ、研究室へ戻ることを決意しました。博士課程でも都市の空間地（主に空き家）に関する研究を更に深めていきたいと思います。

研究やプロジェクトを通して研究室の皆さんから刺激を受けつつ、頑張りたいと思いますので、よろしくお願いします。

博士一年：柏原沙織

2009年に柏の空間計画研究室で修士課程を修了後、民間企業を経て横浜市立大学グローバル都市協力研究センターでアジアの都市保全と出会いました。「何かすごいことが起こっている！」という衝撃と、「お洒落で人が集まれば良いのか？」という疑問を元に、博士課程では「界限特有の雰囲気や、変化を許容しつつ継承して行くには？」というテーマで深めて行きたいと思っています。出身は京都で、今は江東区で顔の濃い夫と私に激似の娘（1歳5か月）と暮らしています。イラストレーターの修行もしています。娘のお迎えのため15時半頃にダッシュで消えることが多いと思いますが、研究室の皆様と色々なお話ができると嬉しいです。これからどうぞよろしくお願いいたします！



研究生：ジョベル・ロラン



ジョベル・ロランと申します。フランスのリオン大学の環境・都市・社会研究室の博士2年で、東京大学の国費留学生です。

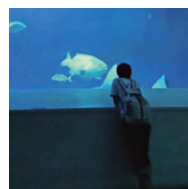
研究対象は首都圏の高級住宅街で、その分析方法は都市社会学のような考え方を含め、数学の集合論と言ったアプローチにも基づいています。

このようなものの見方で高級住宅街という特別な空間の多種多様な問題を触れ、都市の中にどのような位置を持ち、それとも都市の他の部分にもどのような影響を持つことについて考えています。さらに、高級住宅街というと、その高級の現代社会の中での意味についても価値観の検討を行わなければならないと言っても過言ではないでしょう。このような分析方法を持って、博士課程論文を書こうと思っています。



新メンバー紹介 (修士課程)

Introduction of New Master Students.



M1 王 誠凱

- ①中国、江蘇省常州市 / 埼玉大学工学部
- ②大宮台地西南縁の斜面林分布と景観構造分析
- ③野球観戦、大相撲、読書
- ④パリ北駅、金沢駅
- ⑤銀山温泉 (山形県)、柴石温泉 (大分県)
- ⑥都電荒川線
- ⑦十四代、久保田千寿、八海山
- ⑧砂糖
- ⑨アーバンパターン: 都市の計画と設計 (A.B. ガリオン、S. アイスナー)
- ⑩いたずらに将来に望を属するなかれ、満身の力をこめて現在に働け

実らしい
頑張り屋

明るい
巨人ファン

中国から来た
巨人の星

優雅な
貴公子



M1 砂塚 大河

- ①東京都 / 北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース
- ②ノマドワーキングによる公共空間のパーソナライゼーションに関する分析
- ③写真・映画
- ④久我山駅
- ⑤定山溪温泉 (北海道)
- ⑥井の頭線
- ⑦日本酒
- ⑧ぼんず
- ⑨街並みの美学 (芦原義信)
- ⑩眠そうだねってよく言われますが、ちゃんと起きてます!

47 都道府県
制覇の男!

北の不思議な
写真家



M1 川田 さくら

- ①茨城県龍ヶ崎市 / 東京大学経済学部
- ②地方自治体におけるフライバー効果の実証分析
- ③ヴァイオリン、ピアノ
- ④ストラスブル駅
- ⑤支笏湖温泉 (北海道)
- ⑥サンタクロース・エクスプレス (フィンランド)
- ⑦ビール
- ⑧オリーブオイル・塩
- ⑨アメリカ大都市の生と死 (Jane Jacobs)
- ⑩ハードな研究室生活に備え、二ヶ月前から身体を鍛えてきました。

細かな作業
が得意そう

ディズニー
超好きそう



M1 富田 晃史

- ①広島県福山市 / 東大工学部機械工学科
- ②子宮組織再生のための細胞播種手法の評価
- ③バドミントン / 野球 / ドラム
- ④岡山駅
- ⑤黒川温泉 (熊本県)
- ⑥小田急線
- ⑦ビール (IPA) と日本酒
- ⑧ごま油
- ⑨景観の作法 (布野修司)
- ⑩早く研究室デビューしたいです

リスペクト
してる

ごるじ Jr



M1 黒本 剛史

- ①東京都世田谷区 / 東京大学工学部都市工学科
- ②京王線の高架下に欲求解放空間「活動静脈」を設計
- ③テニス・ベース・旅
- ④海芝浦駅
- ⑤酸ヶ湯温泉 (青森県)
- ⑥JR 小海線
- ⑦瑞泉 三日麴
- ⑧かきにがり塩
- ⑨東京の空間人類学 (陣内秀信)
- ⑩人生の礎になる2年間にしたいです。がんばります。

ヘルパーが
女子だらけ

美脚だが
よく食べる

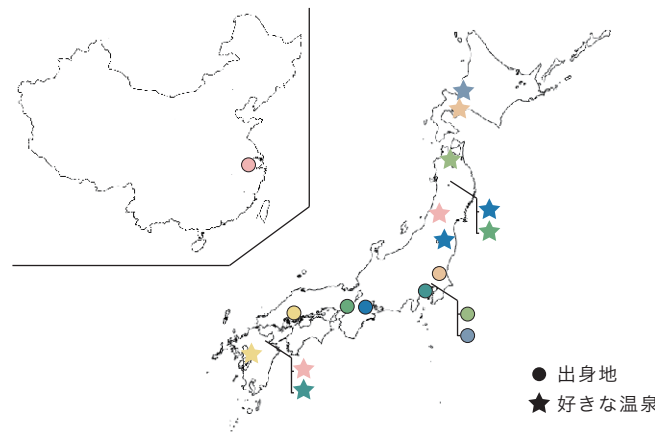


M1 越野 あすか

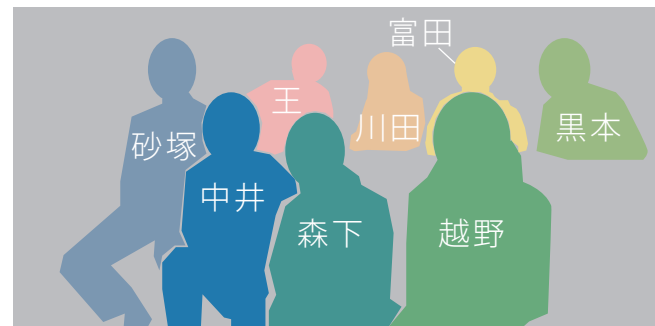
- ①大阪府枚方市 / 東京大学工学部都市工学科
- ②豊洲の公開空地の遊び場利用について
- ③旅行・バレー・テニス
- ④川前駅
- ⑤乳頭温泉に行ってみよう (秋田県)
- ⑥ゆりかもめ
- ⑦サングリア
- ⑧塩・胡椒
- ⑨世界の SSD100 都市持続再生のツボ (東京大学 cSUR-SSD 研究会)
- ⑩全力投球!!!

人当たり
良すぎて裏怖

植物に癒しを
求めている



▲新 M1 の出身地・好きな温泉一覧



◀14 号館 9 階都市デザイン研究室にて



▶昼食時や夜には、先輩方と研究室活動や趣味等の話で盛り上がることもありました。



◀また、先日デザ研 M1 飲み会を行い、お酒も交えながら改めて親睦を深めました。



▶飲み会后、14 号館の 222 で開かれた二次会で行った卓球。女子陣が圧倒的に強く、男子は負けてばかりでした。



新 M1 生に 10 の質問!

- ①出身地 / 出身大学
- ②卒業論文内容
- ③趣味・特技
- ④好きな駅
- ⑤好きな温泉
- ⑥好きな鉄道路線
- ⑦好きなお酒
- ⑧好きな調味料
- ⑨都市に関する愛読書
- ⑩研究室生活への意気込み

麻布の良心
("自称")

饒舌な
ふくよか眼鏡



M1 森下 暢彦

- ①神奈川県川崎市 / 東京大学農学部農業・資源経済学専修
- ②プロスポーツクラブ・企業・自治体の三者の連携の可能性ーかわさき応援バナナの事例からー
- ③サッカー/フットサル/ガーデニング/美術/google マップ鑑賞
- ④城端駅
- ⑤別府温泉 (大分県)
- ⑥中央本線 / 高山本線
- ⑦ビール
- ⑧豆板醤
- ⑨新・都市論 TOKYO (隈研吾・清野由美)
- ⑩脱落しないように頑張ります!!

人当たり
良すぎて裏怖

植物に癒しを
求めている

マガジン編集部 新体制始動

This year's Lab Magazine team start.



マガジン編集部も新しいメンバーが加わり、総勢8名で運営していくことになりました。昨年度から、高梨前編集長が冊子形式のマガジンを月刊で発行していくことにしたため、一つ一つの事柄をより詳細に伝えることが可能になっています。今年度は、研究室の今を発信するという基本コンセプトを大事にしつつ、

読者やマガジン編集部が、これを通じて何を求めるのかということを意識しながら一年間やっていきたいと思っています。そして、発掘し表現され記録となった研究室の今が、やがて積み重なって歴史となり、これからを考える礎になることを願っています。

ページ数が増えて読むのが大変になってしまうかと思うのですが、忙しい方も手軽に読めて、でも時間がある時はじっくりと読めるような、そんなメリハリのある記事構成になるよう気をつけますので、どうか最後までお付き合いよろしくお願いします。

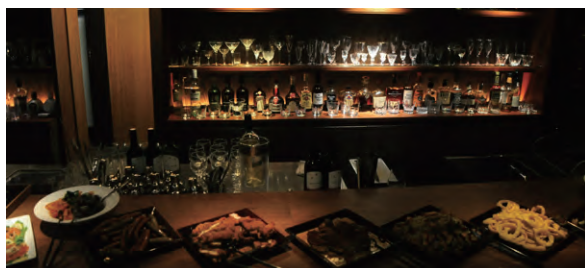
(第11代マガジン編集長 今川高嶺より)

マガジン編集部メンバー M2(上) と M1(下) ▶



ウェルカムパーティー！

Welcome Party!



4月23日、研究室会議の後、さっそく新入生を歓迎する Welcome Party が Bar ABREUVOIR (アブルボア) で開かれました。お店は東京大学農学部のカンパス内にあり、入り口はなかなか分かりにくい位置にありますが、中はワインが自慢のお店らしく棚にグラスが並び、暗めの照明と合わさって不思議な雰囲気を感じていました。

当日はコンパ係が M2 羽野さん・森川さんから M1 の川田さんに引き継がれ、彼女の絶妙な司会のもと M1 の自己紹介タイムが始まりました。今年は M1 が 8 名、博士・研究生が 3 名、新たに研究室のメンバーに加わったのですが、飲み会での様子からは賑やかな一年になりそうな予感がしました。

学生や先生方はウェルカムパーティーでは物足りず、その後は 14 号館 222 のフリースペースに移動して、終電近くまで残って話をしており、おおいに盛り上がったようでした。



◀ お店のグラス棚 (上)
コンパ係の川田さんが司会進行 (下)

Information

4月のウェブ記事

プロジェクト報告会を開催しました！

是非ご覧下さい：<http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ia/blog/>

5月の予定

5月2-3日 マガジン社会科見学
5月18-21日 三国現地訪問
5月27-31日 大槌現地訪問

✧ 編集後記

今川 高嶺

私はこれまで 8GB のメモリのパソコンを使用しておりましたが、最近 16GB にグレードアップいたしました。背景として、最近タスクバーがよくフリーズし、作業を進められないなどの課題を抱えていたことが挙げられます。現在は 8GB だった頃のメモリの節約術を活かしつつも、記憶容量の良さと、編集長に受け継がれる大画面モニター等を利用しながら、ますます真摯にマガジンと向き合っていきたいと思っています。なお、最新の調査によりますと、タスクバーのフリーズは WindowsUpdate によるバグだったことが判明いたしました。